

日本板硝子株式会社 平成 18 年 3 月期中間決算説明会 主な Q&A

Q1.上期で営業利益が計画未達であったが、下期に当初計画のビハインドを取り戻す施策はあるのか？

A1.上期については、重油価格の高騰をはじめとした要因で目標の営業利益を下回っている。下期は、建築用では秋口の需要期に入ることに加え、防犯ガラスの供給能力を2倍に拡大する。また自動車用では、舞鶴での新設製造ラインの稼働や、IR カットガラス（自動車用熱線カットガラス）のカーメーカーへの採用が予定されている。付加価値の高い商品群で最大限努力し、下期に巻き返しをはかる。

Q2.上期の建築用の中で高機能商品と一般ガラスの比率に、変化は？

A2.売上については、機能ガラスのほうが圧倒的に多く急激に高機能品が伸びている。今上期では機能ガラスの比率は68%。通期でのバランスも見る必要あるが、昨年度通期では64%と、4%あがっている。

Q3.下期のガラス・建材部門で、どのくらいの追加改善策を期待しているのかイメージを聞きたい。

A3.（先に説明した拡販策に加えて、）ものづくりの強い会社になりたいという気持ちで社長に就任した。この活動の成果については濃淡がある。成果はすぐに出るものではないが、自動車、二次加工関連で品質・コスト・納期で格段の成果をあげている。

Q4.板ガラス事業の値上げの状況等、進捗度合い

A4.今年の5月に価格改定を実施したが、まだ市場に広く浸透していない。交渉を今後も継続していく。説明でも述べたが重油高騰の要因で、この上期で約10億円コストアップがあったが、コストダウンなどの努力をしても、5億はまだ足りない。したがってまだまだ価格改定はわれわれが想定しているものにはほど遠い。

Q5.NH テクノガラスの状況と見通しはどうか？

A5.第1四半期は好調だったが、第2四半期の後半に生産面で、泡の発生、という支障が生じた。泡が増えている、というわけではないがガラスが大型化すると（泡が1つでもあると不良になる点で）不良率が上がる。目下、設備、操業条件の見直し中。今しばらく時間がかかるが早急にもとに戻したい。第4四半期までには復元するよう努力している。また、シンガポールの新しいラインは年明け稼働を予定している。台湾の新設窯は、来期早々に戦力に結び付けたい。6G対応は現状の設備でも可能だが、泡の問題のクリアが先決であり、また現状は5Gの注文が多いのでこれを優先的に対処している。

Q6.PDP 用ガラスの見通しはどうか？

A6.ユーザーの正式認定が得られていない。現時点では品質の要求水準を満たせていない。今後も粘り強く継続していく。品質とコストを両立させていく。

Q7.足元の情報電子事業の状況について

A7.STN 液晶用基板ガラス（UFF）は、在庫調整は一巡した。価格については、スタンダード品については中国メーカーなどの影響を受ける部分もあるが、当社の強みとなる超薄板ガラスなどの高付加価値ガラスで競合他社に勝るものを築きあげたい。

マルチファンクションプリンタは順調、**SLA・セルガイド**を持っている。セルガイドは厳しい状況だが、**SLA**については、量を増やしている。シェアも高い。その他情報電子の商品では第3、第4の新商品を市場に出していきたい。

光通信でもいろいろなモジュールを開発している。通信と放送が一体になる、トリプレクサは、世界のスタンダードにすべく開発を進めている。

Q8.この上期で PDP の赤字はどれくらい発生したのか？

A8.この上期に特別損失として在庫処分損を計上したが、通常の営業損益のベースではそれほど大きな影響額ではないと見ている。

Q9.将来の大きな成長のための設備投資と資金の考え方。

A9.今現在の当社の **BS** はいい形であると見ているが、大きな成長のためには大きな投資が必要な面もある。資本と借入のバランスの考慮が重要。さらには、個別の投資の回収性が重要。会社全体として投資バランスを考えながら進めていきたい。